

# 複数の随筆の比べ読みから 学習者の考えを見直す試み

—大岡信「言葉の力」および『ことばの力』の  
読解を通して—

獨協埼玉中学校高等学校 古屋葉月

# 授業者の問題意識

- ▶ 「言葉による見方・考え方」は、何をもって学習者に獲得されたとみなすことができるか。
- ▶ 「言葉による見方・考え方」が獲得された場合、それは学習者の何に寄与するのか。

## 〈仮説〉

- ▶ テキスト内の「言葉による見方・考え方」を読み取り、  
学習者自身の見方・考え方の説明に用いることができる  
→ 新たな見方・考え方を獲得し、活用していると言える？

# 教材「言葉の力」について

- ▶ 大岡信「言葉の力」(光村図書 2年)
- ▶ 『ことばの力』(花神社、1977年)より、作者の講演を文字にした章より抜粋、加筆されたもの
- ▶ 「現代詩人・歌人であり、優れた詩歌・古典研究者・評論家としての立場から人格や文体、コミュニケーションの本質と機能に深く関わる言語の豊かな可能性を多面的・多層的に語っている点に大きな特質がある」(佐藤・下岡、2022)\*

# 「言葉の力」について

## ▶大岡の考える「言葉の力」

- ・言葉はそれを**発した者の心**へと繋がっており、  
ありふれた言葉であっても状況や使う人によって**特別な意味を持つ**
- ・言葉を聞く側は、言葉の表面上の意味だけでなく、  
その言葉を発した者の**心情や人柄、その場の状況までも含めて、言葉の「意味」を受け取っている**

# 「言葉の力」について

## ▶教科書本文の特徴

言葉と人間の間係を、桜の花びらと木全体の間係に喩えるのみで「言葉の力」を説明しており、学習者が実感しにくい

→出典『ことばの力』より、3つのエピソードを抜粋。

資料1～3として学習者に読ませ、教科書本文とのつながりを考えさせることで、総合的に「筆者の考える『言葉の力』」に接近できると予想

# 「言葉の力」について

## ▶ 出典『ことばの力』より抜粋した3つのエピソード

### ① 青年が恋人に贈る言葉の作用に関する文章

青年が恋人に「今日この風景をきみにあげよう」と言うことで、その言葉が贈り物になり、

平凡な風景が特別なものになって恋人の心に残るという例。

# 「言葉の力」について

▶ 出典『ことばの力』より抜粋した3つのエピソード

## ② 古典の面白さに関する文章

作者が『古今和歌集』を初めて読んだ時、  
平凡な言葉ばかりでつまらないと感じたが、  
花や月を大切にしていた当時の精神が徐々に見えてくると面白く感じられるようになったという経験談。

# 「言葉の力」について

▶ 出典『ことばの力』より抜粋した3つのエピソード

## ③ 言葉を氷山の一角に喩える文章

言葉は氷山の一角のようなもので、冰山全体は海にほとんど沈んでいる。その沈んで見えない部分が人間の心であるという比喻。

言葉を交わすコミュニケーションは、言葉を通して心をのぞきこむような行為である。



# 「言葉の力」について

- ・三つの資料は、「ささやかな言葉」「ありふれた言葉」の効果について述べている点が共通
- ・資料②と③は「言葉はそれを発した人の心と繋がっている」ことも述べており、教科書本文とも一致

→これらの共通点に気づくことにより、  
筆者の見方・考え方がより明確になるのでは

# 実践の概要(全4時間)

## ▶ 単元名

「筆者と自分の『見方・考え方』を比べよう」

## ▶ 学級

中学2学年3クラスで実施（指導案はうち1クラス分のみ）

## ▶ 生徒観

比較的活発な生徒が多いが、グループ活動には消極的

→2時間目にジグソー法を取り入れ、積極的な姿勢を期待

# 実践の詳細

## ▶ I 時間目

「言葉の力」とはどのようなものか、自分の考えを書く。

### 回答抜粋

- ・気持ちを伝える力
- ・はげます力
- ・語彙力
- ・良い意味でも悪い意味でも人の心を動かす力
- ・有名人ほど言葉の力は強い。心に残る
- ・背中を押してくれる力。(時にはなぐさめられたり)

# 実践の詳細

## ▶ I 時間目

「言葉の力」とはどのようなものか、自分の考えを書く。

### 回答抜粋

- ・人と人をつなげる力
  - ・相手の気持ちを良くも悪くも左右できるもの
  - ・自分の心を動かす力
  - ・言葉によって人を恨んだり、楽しくなったりする
- 「人の心や行動に影響を及ぼす力」を思い浮かべる意見が多い

# 実践の詳細

## ▶ I 時間目

本時に学んだことをまとめる。

### 回答抜粋

- ・実際は人間全体の世界が言葉に反映されている
- ・言葉の意味は、言う人の性格や状況によって変わる
- ・単純にそれだけで美しいと決まっている言葉などはないということがわかった
- ・「桜の色」を喩えとして加えることで、より分かりやすく、言葉の本質が見えるようになったので、「喩える」ことの大切さを学んだ

## 実践の詳細

### ▶ 2時間目

ジグソー法を用いて、資料1~3を分担して読む。

(ワークシート3)

各エキスパートは同じグループのメンバーに内容を報告する。

(ワークシート2)

### ▶ 3時間目

教科書本文と3つの資料について、共通点と相違点を挙げる。

(Googleスプレッドシート)

## 実践の詳細

### ▶ 3時間目

教科書本文と3つの資料について、共通点と相違点を挙げる。  
(Googleスプレッドシート)

- ・3クラスすべて、「言葉と心の関連」「言葉の多義性」「文章表現上の特徴」について言及する回答が見られた
- ・3クラス中1クラスでは、時間の経過によって言葉の意味や効果が変わる点に着目した回答が上がった

## 実践の詳細

### ▶4時間目

1時間目に自分が考えていた「言葉の力」と、大岡信の考える「言葉の力」を比較→「言葉の力」をテーマに随筆を書く

回答抜粋(比較して気づいたこと、考えたこと)

- ・言葉の裏には人の心が隠れている
- ・あまり共通点はないが、言葉はいいものという点が同じ
- ・心までつながるかはわからないけど、つながり合えるのは確か



# 実践の詳細

## ▶4時間目

回答抜粋(比較して気づいたこと、考えたこと)

- ・①の考えと同様、発せられる時と場合によって言葉のナイフになったりクッションになったりすることができる。このように自由自在に自分でとらえられるのは言葉と心があるからこそできると思いました。
- ・言葉と心(内面)のつながりというのから、①でいったことは正しいことがわかった。

※① 単元の初めに自分が考えた「言葉の力」

# 実践の詳細

## ▶4時間目

### 生徒Rの回答

単元の初めに考えていた、「言葉にはプラスとマイナスの面がある」「人の心情がわかるもの」という意見に対して、授業を通じて「言葉と人の心にはつながりがある」ということを学び、自分の考えが補強された。

作文では、「言葉のプラスとマイナスの面は、話者の心が見えることで判断される」という形で、自分の意見を一つにまとめている。「大丈夫」という言葉の印象について、1時間目にも書いていたが、「心が見えるため」という要素が追加された。

# 実践の詳細

## ▶4時間目

### 生徒Iの回答

単元の初めは「人を動かせるもの」が言葉の力だと考えていたが、授業を通じて、筆者の考えに納得するようになった。

作文では、言葉を誰に言われるかで受け止め方が異なっている自分に気づいた旨が述べられている。言葉はどんなときでも人を動かせるのではなく、「自分と他人の関係や地位などその人に対する態度などで人が動くかどうかが決まる」と結論づけた。

# 実践の詳細

## ▶4時間目

### 生徒Hの回答

単元の初めは、「言葉には人の心を動かす力がある」と考えていた。

しかし授業を通じて、「言葉そのものは平凡」という筆者の考えに納得したことで、「話す人により言葉の意味が変わる」という理解をしている。

作文では、話す人によって心を動かされる場合とそうでない場合を挙げて、「言葉自体ではなく、信頼している人の言葉に力がある」と結論付けた。

# 実践の詳細

## ▶ 4時間目

### 生徒Sの回答

1時間目には「言葉は励まし合うためのもの」と考えていた。

4時間目のワークシートでは、「言葉はそのものだけで美しくはない。実際は人間性が言葉に反映されている。人によって、声をかけられたら元気になる値が変わる」と学びをまとめた。

言葉の美しさは、1時間目に読んだ教科書本文の内容である。しかし、Sは1時間目の最後には「言葉を人が動かすのではなく言葉が人を動かしてた」とのみ、まとめを書いている。そのため、教科書を読んだ1時間目にはまとまっていなかった考えが、後の3時間で形になったと考えられる。

# 実践の詳細

## ▶4時間目

### 生徒Kの回答

1時間目に「言葉には、見るだけで感情が湧いてくる、感動させる力がある」と考えていた。

最後にも、「大岡信は話す『人』に注視していたが、自分は話す『言葉』に注視していた」と述べている。

作文を見ると、Kがイメージしているのは物語などを読んでいる場面であり、言葉は想像の世界を支えてくれる存在として位置づけられている。

筆者と自分の着眼点の違いを分析し、自分の考えを捉えなおすことができた。

# 実践の詳細

## ▶ 4時間目

### 生徒Mの回答

単元の初めには「応援されたとき、その言葉が原動力になる」「悪いところを指摘されると、自分を見つめ直す機会になる」と考えていた。

4時間目には、「原動力になったり自分を見直す機会になったりするの、相手の言い方や性格が関係している」とまとめた。また、新たに「言葉は受け取り方に違いがあり、それを楽しむのがコミュニケーションだと思う」という考えも記述している。

作文では、「**言葉の受け取り方が人によって違うのは、普段かけられている言葉の違いではないか**」という考えを示した。

# 実践の詳細

## ▶4時間目

### 生徒Fの回答

単元の初めに、言葉について「人に意図を伝えられて便利だけど、悪口とか言い方によっては人を不快にする力がある」と考えていた。

さらに、4時間目には資料1と自分の考えを比較して、「資料1では素直に気持ちを読み取ってもらう方法を述べている」が、自分は「伝えた後にどう受け取るかを言っている」という考えも記述している。

→ **言葉を伝えても意図通りに受け取ってもらえない場面**を想定



# 実践の詳細

## ▶4時間目

### 生徒Tの回答

単元の初めには、言葉の力とは「相手を喜ばせたり、傷つける力」と書いていた。また、1時間目に学んだことでは「言葉にもサクラの木にもいろいろな見え方がある」「言葉はそれだけで美しい、正しいとは決まらない」とまとめていた。

4時間目には、「言葉の力は相手の心が見えることなので自分の考えとは少し違う」「たしかに僕も相手の心を見えたことがあるような気がした」と振り返っているが、作文の中では「**自分は小学生の時から人の気持ちを考えるのがとても苦手で**」、嫌なことを言って「たくさん人を傷つけてしまった」と書いている。

## 実践の詳細

### ▶4時間目

- ・生徒M、Kは、筆者とは異なる言葉の作用に注目しており、比較を通して、より自分の見方が明確になったと言える。

- ・生徒F、Tはどちらも、自分の言葉が意図通りに相手に伝わらなかった、誤解されてしまったときのことを考えている。

→教科書や補助資料では問題にされていない、

**聞き手の受容の問題**を示唆

# 実践から考えたこと

## ▶ 見方・考え方について

- ・ワークシート4で、単元の初めに考えた自分の意見にもう一度立ち返り、筆者の考えと比較させた。
- ・筆者の考えを引き合いに出しつつ自分の考えを説明できた生徒に関しては、筆者の言葉に対する見方・考え方を獲得できていたのではないか。
- ・ただし、「似ている」「違う」で終わってしまう生徒も各クラス数名いたため、問いの質には改善点がある。

# 実践から考えたこと

## ▶ 見方・考え方について

- ・単元の初めの段階から、「人の心や行動に影響を及ぼす力」を思い浮かべる意見が多かった

→2学年知識及び技能「言葉の働き」

**ア 言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気付くこと**  
の学びにつながる教材

# 実践の反省、考えたこと

## ▶ 反省点

- ・教科書について、「言葉は人間全体を反映する」という事象を、単純に「誰が話しているかによって言葉の印象が変わる」という観点で捉えてしまう生徒が少なくなかった
- ・生徒FやTの作文から見てきたもの
  - 言葉を発した者の心は、簡単には映し出されない
  - 資料3とも結び付けながら、言葉を通じて心をのぞき合う難しさにも触れていける作品である

# 実践の反省、考えたこと

## ▶ 反省点

- ・教科書と三つの補助資料について比較する際、表現の面を指摘する意見がどのクラスでも挙がったが、扱うことができなかった
  - ・表現の面に関わらず、4つの文章の比較、それぞれに示された「言葉の力」の違いなど、細やかに扱うべきだった
  - ・最後のワークシート4は、各クラス2～5名ほど、自分と筆者の考えを比較して書き表すことができなかった
- ↑ワークシート1の時点では、大きな差は生まれていなかった。  
補助資料の数や提示の仕方、フォローの問題か。

“

ご清聴ありがとうございました

”

＊佐藤洋一・下岡光華(2022)「『言葉による見方・考え方』を働かす国語科授業への一視点 ―随筆教材『言葉の力』(大岡信・中学2年)を例に―」、愛知教育大学教職キャリアセンター紀要第7号、pp.68～72